

ヴィゴツキー派の社会文化理論に基づく数学科授業 過程の実証的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ohtani, Minoru メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00065820

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



ヴィゴツキ-派の社会文化理論に基づく数学科授業過程の実証的研究

Research Project

All

Project/Area Number

08780147

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Science education

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

大谷 実 金沢大学, 教育学部, 助教授 (50241758)

Project Period (FY)

1996

Project Status

Completed (Fiscal Year 1996)

Budget Amount *help

¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Fiscal Year 1996: ¥1,100,000 (Direct Cost: ¥1,100,000)

Keywords

ヴィゴツキ- / 授業過程 / 数学教育学

Research Abstract

本研究は,中学校の第1学年の数学科の授業を,ヴィゴツキ-の「発達最近接領域」論を視座として分析することを目的とした。具体的には,数学に特徴的な実践の諸相,すなわち,数学的問題の構成,解法の手だての計画,解法の構成,結果の検討,問題や解法の再検討といった相が,実際の授業過程においてどのようにして社会的に構成されるのかを,「参加」と「談話」の形態という対人的相互行為の概念を分析視点として分析を行った。中学校での数学科の授業過程における社会的相互行為と生徒の数学的認知活動の依存性を探究するために,石川県の公立中学校第1学年2クラスを調査対象として設定し,そこで営まれる数学の授業を,一年間にわたり参与観察した。この過程でえられた授業のプロトコルから,授業における特徴的な「参加」の形態と「談話」の形態を抽出するとともに,個々の生徒の実際の数学的作業の態様を記述した。これらのデ

一タの相互関係を視野に入れつつ,当該の数学の授業過程における社会的相互行為と生徒の数学的認知活動の依存性についての仮説を提示した。こうした研究成果は、日本数学教育学会ならびに、第20回数学教育心理国際会議において公表された。

Report (1 results)

1996 Annual Research Report

Research Products (2 results)

All Other

All Publications (2 results)

[Publications] Minoru Ohtani: "Telling definitions and conditions" Proceedings of the 20th Conference of IGPME. Vol.4. 75-82 (1996) 

[Publications] 大谷実: "算数の授業における社会数学的活動の構成" 第29回数学教育論文発表会論文集. 385-390 (1996) 

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-08780147/>

Published: 1996-03-31 Modified: 2016-04-21